

いしかわ地域づくり 往来

[www.pref.ishikawa.jp/
shinkou/dukurikyou/](http://www.pref.ishikawa.jp/shinkou/dukurikyou/)

発行日／平成24年2月
発行／石川地域づくり協会
発行者／石川地域づくり協会事務局 事務局長 中本利光
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
石川県企画振興部地域振興課内
TEL. 076-225-1312 FAX. 076-225-1328

Vol.10



こまつ滝ヶ原里山自然学校『エコツアー塾』石切場入口

C o n t e n t s

- 1 平成23年度
石川地域づくり塾の報告**
 - 開講式、開講プログラム…………… 2
 - 地域づくりコーディネーター研修会 …… 3
 - 遠野研修…………… 4
 - 先進地事例を学ぶ …… 5

- 2 地域づくり活動の紹介**
 - 里山自然学校こまつ滝ヶ原(小松市)…………… 6

- 3 いしかわ地域づくり円陣2011を開催**
 - 人の絆がエネルギー
 - ～地域づくりのシクミ・シカケ・エネルギー！～ ……7

- 4 地域づくり円陣出前プロジェクトの報告**
 - 岩手県陸前高田市横田地区
 - ～復興した能登の元気を東日本へ～ …… 8

1-a 平成23年度石川地域づくり塾の報告

石川地域づくり協会では、地域づくり活動の担い手育成のための研修会「石川地域づくり塾」を実施しています。平成23年度の地域づくり塾は、当協会の地域づくりコーディネーターなどを講師に、団体でリーダーを担う方を対象として、年間を通して開催しています。今回は、終了した回について報告します。

開講式、開講プログラム

6月25日、26日の2日間、石川県青少年総合研修センターにおいて、赤須治郎コーディネーターと濱博一コーディネーターを講師に、開講プログラムを行いました。

■6月25日(土)

地域づくり塾の初日となったこの日は、お互いに初めて顔を合わせる塾生の自己紹介から始まりました。それぞれが所属する団体の課題や、地域づくり塾で学びたいことなどを、各自が事前に用意してきたスライドを使って発表しました。

皆で昼食をとった後は、「地域資源と地域づくり」をテーマとした講義を行いました。講師の赤須治郎氏がコーディネートした加賀の紅茶や白山堅豆腐カレーなど、地域特産品の事例が紹介され、試飲・試食しながら地域づくりについて考えました。

自己紹介の様子。参加動機や目標等を発表しました。



さらに、この日は、「上には上があることを知る」や、「仲間、ネットワークをつくる」など、「地域づくり」という広い分野の全般に通ずる、心得ておくべき考え方も学びました。

■6月26日(日)

2日目は、濱博一コーディネーターを講師に、「企画」について学びました。

企画の手順、要素など、企画を立てる際の前提となることを学んだうえで、後半には、自分たちの住む地域、所属する団体が抱える課題の解決に向け、実際に企画を立案しました。次々と新しい案を出していかなければならないブレインストーミング法や、限られた時間の中でプレゼンテーションできる状態に持つため、皆さん頭をフル回転させているようでした。

ワークショップでは、3つのグループに分かれて企画を立てました。



1-b 平成23年度石川地域づくり塾の報告

全国から地域づくりのリーダーたちが集まる「地域づくりコーディネーター研修会」(主催:地域づくり団体全国協議会)に参加しました。例年は東京で行われていましたが、今年度は東日本大震災の影響で仙台が会場であったため、被災地の視察も行いました。ここでは、このプログラムに参加した川北重信さんのレポートを紹介します。

地域づくりコーディネーター研修会

今回の研修では、現地を見て、また研修を聞いて、とても考えさせられる問題が非常に多くあり、これまでの考えを一新する必要性を強く感じました。と同時に、先駆者が行ってきたこれまでの事例を勉強することの重要性をも認識しました。

報道では、被害の大きさや家族の話題が多く取り上げられています。それはそれなりに重要だとは思いますが、「地域コミュニティ」についてももっと取り上げることが必要だと思います。「地域コミュニティ」については、深く掘り下げるのが難しい話題だとは思いますが、復旧・復興に向けて進んでいく際には、非常に大きな比重をもつ部分だと思います。人と人とのつながりがこれからの地域再生の基本であると感じているからです。

女川港付近の様子。大きなビルが横たわる風景からは津波の脅威を痛感させられました。



濱コーディネーターがよく言われた「心配停止」。その通りで頭が停止状態にならないように行動したいと思います。

様々なところで、行政マンが悪のようなイメージで話されていた部分がありましたが、非常事態ですので誰がどうこうではなく、互いに是々非々で事に当たり、全員参加の構図が必要だと思います。

最後に、石巻市は自分の事前学習の地として選んでいましたので、地勢図を頭に入れていました。長い海岸線と延々と続く水産関係の被害工場群、焼け焦げた小学校。多くの死者・行方不明者を出し、濱講師の言われた「石巻は本当に頑張れるのか」という言葉が心に響きました。

市民一丸となって、頑張って復旧・復興にあたって欲しいと思います。

「地域づくりコーディネーター研修会」の様子。



1-c 平成23年度石川地域づくり塾の報告

今年度、石川地域づくり協会では、「地域づくり円陣出前プロジェクト～復興した能登の元気を東日本へ～」と題した東日本大震災の支援事業を行いました。能登半島地震の際に、沖縄県の地域づくり団体から頂いた支援金を使って行ったものです。

詳しくは「4地域づくり円陣出前プロジェクトの報告」で報告しますが、ここでは、このプログラムに参加した木村孔明さんのレポートを紹介します。

遠野研修

私はこれまで、被災地において、ボランティアとして個人のお宅の床下に溜まった泥出しや撤去をしたり、コーディネーター研修会において、被災地で取り組んでいる方々の事例を学ばせていただいていた。

そして、今回、被災地の後方支援を行っている遠野まごころネットの菊池氏と関わらせていただき、炊き出し等を通じてコミュニティの原点を見たように思います。

今回の研修を通じて感じたことは、このつながりを一度きりで終わらすことなく、これからも継続的に交流をし、皆で助け合うという気持ちを持ち続ける必要があるということです。

石川県には、地域づくりに精通したコーディネーターの方々がたくさんおり、しかもその方々の多くは能登半島地震を経験し、その復興に携わった方々ですので、そういった方々のノウハウを被災地に伝えることができると思います。

また、地域づくり塾を座学だけにせず、例えば、被災地復興を塾生の現場実習課題とし、コーディネーターの方々と共に被災地支援に赴くことも大事だと思います。

今回の震災を機に、「絆」というものを深く認識させられました。同じ時代を生きていくうえで大切な助け合いの精神を忘れずに、自分のできることをやっていきたいと思います。

大鍋振る舞いの打ち合わせ中。



完成したつみれ鍋。たくさんの方に食べてもらえ、鍋は空になりました。



1-d 平成23年度石川地域づくり塾の報告

10月と12月の2回、県内の地域づくりの先進地の視察を行いました。

10月の研修では、森山奈美氏をコーディネーターに、羽咋市神子原地区と(株)御祓川の取り組みについて、12月の研修では、谷内博史氏をコーディネーターにピースバンクいしかわの取り組みについて学びました。

先進地事例を学ぶ

■ 10月15日(土)

羽咋市・神子原地区/七尾市・(株)御祓川

この研修では、限界集落であった羽咋市の神子原地区を見事に蘇らせたスーパー公務員高野誠鮮氏を講師に招き、神子原米のブランド化への取り組みについてなど、お話を伺いました。

その後は能登島で開催されていた「のとてまつり」に参加し、地元住民による地域の活性化を視察すると共に、コーディネーターの森山奈美氏が代表取締役を務める地域づくり会社(株)御祓川の取り組みについても説明してもらいました。

高野誠鮮氏による取り組み説明。



■ 12月10日(土)

金沢市・ピースバンクいしかわ

この研修では、NPOへの融資等を行う「ピースバンクいしかわ」の代表理事・小浦むつみ氏を講師に、融資までの流れの説明や、これまでの融資先の活動内容などについてお話を伺いました。

後半は、ピースバンクいしかわが主催するセミナー『稼げるNPOが石川を変える』に参加し、融資を希望するNPOの審査などを模擬体験させてもらいました。

コーディネーターの谷内博史氏と、ゲスト講師の小浦むつみ氏。



2 地域づくり活動の紹介

県内では、各地域づくり団体が、それぞれの手法により地域づくり活動を展開しています。今回は、その中から「里山自然学校こまつ滝ヶ原」の活動を紹介します。

里山自然学校こまつ滝ヶ原(小松市)

小松市内は里山里湖に恵まれ、そこにある豊富な里山資源・人・文化を発信し、自然と共生しながら活性化しようと、2010年、「こまつ SATOYAMA協議会」がつけられました。そして翌年、国の「食と地域の交流促進対策交付金」事業を受けて、滝ヶ原保育所と小学校分校跡を協議会の拠点に、里山自然学校「こまつ滝ヶ原」が開校しました。

滝ヶ原は粟津温泉や那谷寺に近く、鞍掛山への登山口のひとつがあります。かつては石切り場として栄え、今も残る5つのアーチ型石橋群は市指定文化財にもなっており、環境王国認定のポイントにもなったハッチョウトンボなどの貴重な生物も生息しています。

この学校では初年度、「里山生き物」調査塾、「里山ビジネス」創出塾、「里山里湖エコツアー」塾、「里山エコアグリ」塾、「里山復権」実践塾、「里山グルメ」開拓塾という6つの塾で、それぞれの塾長がその技術を活かし、教室を企画・運営(時には講師も)しました。その内容

は、石の鑑賞会、店舗開業基礎講座、川歩き調査会、地元の方を対象にした有機栽培普及講座、樹木の名札作りと名札付け、東京の女子大生による農家レストラン、かもし料理講習会などです。募集は主に市を通じての広報やHP、口コミ、チラシで行いました。塾単独のものも、イベントデーを設け合同でしたものもありますが、全体的に募集の告知が遅れ、定員に満たないものが多くなってしまいました。運営委員会のメンバーとしてその運営主体となり、お世話いただいた滝ヶ原の方々に感謝します。

まだ始まったばかりで運営などの課題は山積ですが、滝ヶ原はあくまでも里山里湖の発信拠点です。里山全体をフィールドにした活動をして、一般の方はもちろん、県内外の大学、学校、各種団体、NPO にこの学校を知ってもらい、利用していただければもっと里山は生き活きとするでしょう。そのための勉強と努力をもっと一人一人がなくてははいけませんし、お互いの意思疎通を図ることが大切だと思います。

「グルメ開拓塾秋の実探し」の様子。



「グルメ開拓塾朴葉飯作り」の様子。



3 いしかわ地域づくり円陣2011を開催

11月20日、羽咋市で、当協会主催の研修交流会「いしかわ地域づくり円陣2011」を開催しました。今年は「人の絆がエネルギー～地域づくりのシクミ・シカケ・エネルギー！～」をテーマに、羽咋市で活躍する地域づくり団体による5つの分科会と、全体会が行われました。詳しくは、「地域づくり円陣2011」報告書でお知らせしますが、ここでは概要等を報告します。

人の絆がエネルギー ～地域づくりのシクミ・シカケ・エネルギー！～

「コスモアイル羽咋」

今年のメイン会場はコスモアイル羽咋の小ホールでした。



第1分科会

「手作り祭事・イベントを盛り上げよう！～地域の思いを集め、多くの人に届けるには～」
(羽咋市文化会館)



第2分科会

「魅力あるまちづくりから絆・ひとづくりへ～公園・花壇の整備と人を巻き込むまちづくりのための「シカケ」と「シクミ」～」
(羽咋市文化会館)



第3分科会

「地域社会の絆づくり～「おっちゃっ家」は寄るマイホーム(擬似家族)への一里塚～」
(おっちゃっ家)



第4分科会

「地域の観光資源再発見～羽咋市千里浜地区で地元学と観光のまちづくりを考える～」
(千里浜レストハウス)



第5分科会

「過疎地の里山を蘇らせる～世界農業遺産登録を追い風に～」
(邑知公民館神子原分館)



全体会、交流会

石川地域づくり表彰の表彰式、各分科会のコーディネーターやゲストによるひな壇トーク、各地域の特産品を持ち寄った交流会などを行いました。



地域づくり塾の一環として行った「地域づくり円陣出前プロジェクト～復興した能登の元気を東日本へ～」と題した東日本大震災の支援事業について、コーディネーターの赤須治郎氏の総括報告を紹介します。11月20日に行った「いしかわ地域づくり円陣2011」の中で発表したものをベースにしています。

岩手県陸前高田市横田地区 ～復興した能登の元気を東日本へ～

去る9月30日から10月2日まで、「地域づくり円陣」の出前と称して、岩手県陸前高田市の横田地区に行ってきました。その報告を行います。

私たちは能登の大鍋料理をふるまうために行きました。地震から半年が経過しており、このようなときに炊き出しをする意味があるのだろうか、あるいは、地域づくり円陣の出前とっていますが、出前じゃなくて手前味噌と受け取られないだろうか、という不安を抱きつつ出発しました。結論から先に言いますと、現地の皆さんにたいへん喜んでいただけました。そして、行ってみたいと分からない、やってみないと分からないことがある、ということに改めて気付かされました。

私たちが行ったのは陸前高田市の横田地区です。横田は海から離れていたため、ここまで津波は到達せず、被害を免れました。ここには仮設住宅が3か所あり、被災して避難してきた人と、被害を免れた地域住民とが混在している地域です。私たちは能登半島地震を経験していますから、たとえ建物が壊れなかったとしても、この地域の人たちが、有形無形の被害を受けていることは想像できます。また、被害の

少ない地域だから、支援の手があまり届いていないという現実もあったようです。このような地域で大鍋料理をふるまいました。

そんなに手の込んだ料理ではありません。材料の野菜も現地で調達しました。やろうと思えば現地の人でも作れるのですが、ある被災者の方は、ご家族も連れてきて、こんな本格的な料理を食べたのは久しぶりだといいました。仮設住宅に入居できても、ゆっくりお料理をする気持ちにはなれないのかもしれないと。やってみないと分からなかったことです。

鍋料理がなくなり、片づけをしていたら、ひとりの女性がやってきて、話し合いはないのですかと聞きました。彼女は地区の女性団体の会長さんで、前会長が震災でやめたため、急遽会長になり、なにから手をつけるか迷っているときにこのイベントを知り、駆けつけたとのことでした。短時間でしたが、彼女に能登半島地震の際の取り組みを説明し、また、ちょうど会場に到着した遠野まごころネットの菊池新一さんを、現地の相談役として紹介することができました。

出前円陣では人のつながりの大切さを見せつけられました。今回の受け入れをコーディ

ネットしていただいた遠野の菊池さんは、地域づくりの全国大会石川大会のときにゲストで来ていただいたことがあり、そのご縁で東北行きが実現しました。

また、横田地区を選び、会場の交渉や告知をしてくれたのが、東洋大学の大学院生の本多さんです。当日は新潟出身の女子大生もお手伝いにきてくれました。どちらも地元の人ではありません。「遠野まごころネット」のボランティアスタッフで、災害支援に駆けつけ、長期滞在している人たちです。能登のときもそうでしたが、ここでも横のつながり、すなわち、行政—住民という縦のつながりではなく、市民—市民という横のつながりが機能しました。

余談になりますが、日本人は横につながる事が上手ではありません。その証拠に、横がつく漢字の熟語はマイナスイメージのものしかありません。横行、横車、横柄、横着、横槍、横領、横暴。ひとつだけいいのを見つけました。横綱です。

横のつながりは簡単なことではないのかもしれませんが、今回の出前円陣に参加した全員が感じたことは、これからも東北の人たちとつながっていくことの大切さでした。

もうひとつ余談ですが、この経験の後に企画した「いしかわ地域づくり円陣2011」ではメインテーマを「人の絆がエネルギー」として掲げました。遠野研修で感じた「人の絆の大切さ」を、いしかわの地域づくり活動にも取り入れました。他地区と交流することは私たちの地域を変えることでもあります。